

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在は施設の玄関前に、理念を掲げ、管理者と職員は、その理念を共有して、実践につなげている。近日中にGHフロアー壁掲げて実践向上を図ることになっている。	「笑顔・思いやり・気づき」を理念に掲げ職員間で共有している。日頃から職員間でどのようなホームにしたいか話し合い、利用者の「家」として、家族と離れていても、ここで幸せだと思っていだけるようなケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域の慰問を受け入れており、天気の良い日には、ご利用者を散歩に連れ出し、地域の人と挨拶を交わしている。近隣の保育園児との交流も定期的に行っている。	事業所の広報誌を回覧板で回していただいたり、近所の人や昔の職場仲間が訪ねてくれる。アコーディオン演奏、カラオケ、書道教室のボランティアの受け入れや、保育園児との交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設1年経過の中で、内部での実践を積み上げている段階であり、地域にまではまだ達していない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見等をサービス向上につなげて行けるよう、スタッフ会議等で報告し、やれるものから実践することになっています。	運営推進会議は1年間で4回の開催であり、理事長が出席しているが管理者は出席していない。家族の話をよく聞いてほしいという意見が出されたが、利用者・家族の思いを汲み取って今後のサービスに活かしていきたい。	運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回以上開催し、地域密着型サービス事業所の活動を明示するとともに助言等を得て、地域に開かれたサービスとなることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議のメンバーに加わっていただいております。利用者状況、認知症介護の問題点などを、情報公開し、アドバイスを頂きながら、協力関係を築いております。	市町村から市町村の代表として包括支援センターが運営推進会議に参加していると言われた。包括支援センターからは、入居困難事例を相談し支援をもらっているが市町村担当者とのかわりはない。	市町村は介護保険の保険者であることから事業所の実情や取り組みを報告する等よりよい関係を構築することが望まれる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、自由に出入りしています。緊急性・非代替性・一時性でなければならないことを踏まえ、家族、本人と十分話し合いをした上で、実施しています。毎月カンファレンスを開き、解除に向けての検討しています。	全ての職員は自由を奪うことの弊害を理解しており、利用者の立場にたって考え見守ることができている。出入り口や居室のドアは開放されている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後スタッフ会議・内部研修などで学ぶ機会を持ち虐待防止を徹底していきたいと思っております。	ケアのなかで言葉使いにも配慮しており、職員は虐待の防止について常識的には理解し、そのような行為は見受けられない。研修等学ぶ機会が少ない。	不適切なケアやサービスの質低下・職員の疲労やストレスが利用者へのケアにどのような影響を及ぼすのか等定期的に学ぶ機会を持つことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、保佐人と連絡を密にし、本人の自己決定を尊重し、本人本位の生活ができるように支援しています。今後も権利擁護制度の理解を深める必要があると認識しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約の際には、十分な説明をし、捺印していただいております。改訂等はまだありません。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際には、要望・意見などをお聞きしており、必要に応じて、電話連絡を取り、様子をお伝えしております。	毎月1回広報誌を入れた手紙に職員の一言を沿え、利用者の近況を報告したり面会時には、時間を取り意見や要望を聞いている。差し入れたおやつを自由に食べさせてあげたいという家族の意見を取り入れるなどケアに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長・事務長・管理者は、運営に関する職員の意見や提案を受けると、可能な限り、それを反映させ、働きやすい職場環境を心がけています。運営推進委員会などでは、忌憚のない意見を頂くこともあり、改善に向けて努力しています。	理事長・施設長は現場職員の話をしっかり聞いてくれている。食事の席決めで利用者の関係悪化があり、工夫の仕様がなくテーブルを1台買ってもらった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長・事務長もよく現場に来ていただいて、利用者与会話したり、時には散歩に一緒に出るなど、率先して職員が向上心を持てるようにしていただいております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長・事務長は、職員の資格取得に積極的に働きかけています。また、職員で協力しながら、全体の資質・技術の向上に向けた話し合い・工夫も行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内GHとの交換研修等を通じた交流を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査・面談などで、ご本人の現在置かれている心身の状況、思いを聞き取り、意向に沿った支援に努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の相談ごとやケアに対する意向を聞き取り、毎日の生活に反映できるように努めています。ホームでの取り組みを良く理解していただくことに努めます。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のニーズを含め、その時々々の必要なケアを見極め、可能な限り柔軟な対応を心がけています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに声を掛け合うことにより、協力し合っていて、安心・安全に生活できるような関係を築いています。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が、ご本人・ご家族との間に立ち、連絡を密にし、情報を共有することにより、共に支え合える関係作りに努めています。	面会時短い時間でも家族として触れ合うことが大切と考え職員は調整役となり、利用者・家族の間を取り持ち、家族の協力を得ている。それにより家族の面会が増えたことがある。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで歩まれてきた関係が途切れないよう、ご親類・ご友人などにホームに来ていただけるようお話ししています。外出の際などには、馴染みの場に出向き、外部との交流を保てるように努めています。	以前から利用していたスーパーに買物に行ったり、公民館に踊りの練習を見に行き友人と会ったり、近隣の方の入居が多く馴染みの関係が続いている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の思いを良く汲み取った上で、その時々々に対応した関係作りに努めます。また、皆さんで、協力・共同できるレクリエーションも取り入れ、一体となる関係作りにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、次施設への申し込み等の相談や病状経過等を伺い良好な関係を保っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をよく聴き、言葉・表情・仕草などから、その人らしさや思い・意向を汲み取るよう努めています。	日常生活の場面場面で寄り添いゆっくり話をきいて思いをくみ取っている。入居時の聞き取りやセンター方式の記録・家族の協力も得て把握に努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に、本人や家族から、これまでの暮らし方や趣味・嗜好などを伺っています。日常の会話からも一人ひとりに様々な歴史があることが感じられます。	現役の頃活躍していた話を生き生きと話すことがある。一人ひとりの話をよく聞き、職歴・生活歴を知ることによって利用者をより深く理解するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の様子をよく観て、感じ、生活記録に記入しています。それぞれの持つ力で助け合い、解決できそうなことには、職員はできるだけ見守るようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	効果がみられているかどうか、3か月に1回を基本に見直しを行っています。本人・家族に意見を頂き、課題の把握・ケアの在り方についてカンファレンスを開き、計画を作成しています。	毎日の介護記録をまとめ月1回評価している。およそ3ヶ月毎の見直しを行っているが状態変化時は随時見直ししている。全職員で意見を出し合い作成し、家族にも意見を聞いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・生活記録を活用し、情報を共有しています。ケアプランの実施内容を記録し、日々の実践状況、必要性の把握を行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科・理美容サービスを利用できる体制になっています。必要に応じ、受診や外出に付き添い、安心して生活できるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物など、外出する機会を設けています。また、近隣の公民館・図書館などへも積極的に出かけています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の希望を優先しています。家族から相談があった場合には、適切な医療機関を紹介しています。	利用者・家族の希望する主治医に受診できている。基本的には家族から同行してもらっているが職員も付き添うことがある。利用者の状況を記録し報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないため、介護職員が体調管理を行っています。必要に応じて家族へ連絡を取り、受診をお願いしています。家族が対応できない時はこちらで受診に連れて行きます。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の了解得た上で、入院時に主治医との面談に同席し、本人の病状経過・服薬状況を説明しています。入院中は定期的に病院に行き、担当看護師と情報交換しております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望にはできるだけ応えられるよう努力しています。事業所としての方針は、まだ明確にできておらず、今後検討が必要です。	家族は終の棲家と考えているが、事業所は医療が必要となれば転居と考えている。代表者を含めた話し合いには至らず事業所の方針が明確でなく伝達されていない。	運営推進会議や関連機関の意見等を参考に、重度化していくなかで家族と十分な話し合いを持ち、事業所の方針を明確にして、家族と方針を共有することを期待したい。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に備え、緊急対応マニュアルや救命対処法を目の届く場所に掲げています。今後は実践力を身に付けていただきたいと思えます。	軽度のことは職員が対応できている。重態や意識消失等は管理者を電話で呼び出し対応している。マニュアルは目の届くところにあるがマニュアルを用いた実施訓練がされていない。	けが、骨折、のど詰まり、発熱、発作、意識消失等全ての職員が対応できるようにマニュアルに基づいた定期的な訓練を行い、いざという時に備えることが望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回消防署の指導の下、併設している特養『遊生の森』と合同で実施しています。地域と災害時の連携についてはこれから話し合いたいと考えています。	消防署の協力を得て、併設の特養と合同で訓練しているが、事業所の職員が利用者とともに避難経路を歩いて避難場所まで行くような実際の訓練は行っていない。地域との協力は今後の課題である。	火災だけでなく地震、水害等いろいろな場面を想定した昼夜の訓練も考えられる。家族や地域の人々の協力を得られるよう働きかける。また、利用者の備蓄の確保も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方の性格や人格を考慮した上で の声かけに配慮しています。申し送りなどの 際に、職員間で情報を共有し合い、より良い 対応をできるように心掛けています。	人生の大先輩として敬意を払い、人前であら さまな言動は行わない。特に入浴・トイレ誘 導は気配りして居室で言葉がけすること もある。記録類は鍵のかかる所に保管してい る。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	ご利用者からの希望があった際には、可能 な限りその意向に沿えるよう努め、ご利用者 からの思いや希望を安心して表せる環境を 作り、機会を増やせるよう努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のリズムで日々の生活を送ってもら うことにより、職員が無理に活動を提供す ることなく、ご利用者が自らの意思で思い思いに 日々過ごせるように配慮しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	朝の着替えや入浴時の着替えなどは、ご本 人の意向を尊重し、好みの物を着てもらえ るように配慮しています。お化粧の好きな方 には、お化粧道具を用意し、使用していただ いています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	毎回の食事作りでは、ご利用者の力をお借 りし、職員やご利用者同士で協力し合い、楽 しく準備、食事等が出来るよう努めていま す。	利用者のできる力を大事にして、食事の準備から 後片付けまで職員と一緒にしている。職員は利 用者と同じテーブルを囲み、家庭的な雰囲気の中 で楽しく食事をしている。献立は利用者の好みを 聞きながら職員が順番に作成している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	その方に合わせた分量や、形態(ミキサー 食・刻み食など)で食事をお出ししています。 水分摂取を心掛け、毎日の食事量もチェッ クすることで、体調管理を徹底しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛けをし、ご自分 でしていただいています。磨き残しのある方 は、声掛けや、職員が洗浄することにより、 常に清潔に保てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄が出来るように個々に対応しながら支援しています。また、排泄チェック表を作成しています。	排泄チェック表を用い利用者の排泄パターンを把握している。一人ひとりに合った声かけ、誘導により失敗が減り、紙パンツの使用が少なくなった方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘などの方には便通が良くなるように、乳製品や食物繊維のあるものなど多く摂取していただくなど考えており、水分摂取の声掛けもしております。それでも改善できない場合は、主治医と連携を取り、服薬を併用して予防に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせた時間帯や回数などを配慮しています。好みの温度等も考慮しています。	入浴は利用者の希望により毎日行っている。拒否されるときは時間やタイミングをずらして誘うようにしている。入浴中は職員と1対1の関わりが持て楽しみにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や身体状況に配慮しながら無理なく一日を過ごしていただくようにしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケースごとに整理して職員が内容を把握できるようにしています。薬の処方が変わった時は連絡ノートや生活記録にて記録しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメントシートを活用し、一人ひとりの生活歴・趣味や楽しみ等を把握しています。できること、得意なことを通し、役割を持つことで、張り合いや喜びのある生活の支援に努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物など外に出る機会を作り出しています。また、図書館やドライブなど、その人の希望に沿えるように支援しています。出来るだけ家族には一緒に外出する機会を設けていただけるようお話ししています。	馴染みのスーパーへ買物に行ったり、近所を散歩したりしている。外食にも出かけている。帰宅欲求の強い方に対して家族の協力を得外で待ち合わせたりして希望に沿った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にとってお金の管理は生活リハビリの点から欠かせないと考えています。家族からの預り金を金庫に保管していますので、必要時その中からお金を引き出し、買っただいています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より家族に話しをしたい時などは、電話等でお話しが出来るよう支援し、帰宅願望のある方はケアプランに位置付けしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下などに手作りの作品を飾っています。ソファなどを置いて居心地良く過ごしていただけるよう工夫しています。壁には好みの歌詞カードを貼っています。	フロアには縁台にカーペットが敷いてあり、そこに寝転んで昼寝をしたり洗濯物たたみを手伝うスペースになっている。廊下には緑のソファがあり利用者同士と一緒に休んで歌を歌ったりしている。壁には懐メロの歌詞カードが貼ってあったり手作り品がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり思い通り過ごせるように畳場があったり、ベランダにて家庭菜園をし、野菜の育成や収穫を楽しまれています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、使い慣れた家具や馴染みのある品々を持ってきていただき、安心して過ごせるよう配慮しています。	居室には利用者の使い慣れたタンスや衣装ケースがあり、仏壇を持ってきている方もおられる。お孫さんの写真や手作り品が飾っており、利用者の好みを取り入れている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、手摺り等を設置したり、段差の解消を図ったりしています。本人・家族と相談しながら、居室内の障害物の撤去、安全な動線を確認するよう工夫しています。		



サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない